

随想

第180回

「選択と集中」という言葉をよく耳にするようになりました。

これは、企業の経営戦略として、アメリカのGE(ゼネラル・エレクトリック)社が「選択と集中」により業績を高めたことから有名になったといわれます。

GEは、その市場でトップクラスの事業以外は高い利益を出せないとして、撤退や他社への売却を進め、経営資源を選択した主力事業部門に集中投資して、本業回帰を推進し成功したといわれます。

バブル経済期には、有力企業の中に多角化を進め本業と全く関係のない分野に参入し、全体の経営効率を低下させる弊害が発生したケースもありました。

「本業回帰」といいますか、得意とする分野を深め発展させることの重要性が問われております。

バブル経済時代には、右肩上がり、効率というよりも持てる資源を大量に、全方位に投下し事業を拡大することができました。

しかし、最近の厳しい財政事情の下では、いかに効果的に限られた資源を生かすかが問題であります。

「選択と集中」を経営戦略として、企業なら得意とする分野を、行政では優先順位の高い事業分野を絞り込み、そ



の事業を集中的に強化することによって、住み良い街づくりを実現することが大切であります。

第五次土岐市総合計画のスタートに当たり、過去、四次にわたる総合計画で、予定いたしました各種事業も、市民各位のご理解とご協力によりおおむね順調に実現できました。美濃焼単一産業から、若人の雇用確保と拡大を目指して産業構造の高度複合化を求め

て進めてまいりました企業誘致も、泉町北部、下石町西山鶴里町西ノ平の各工業団地に順調に企業が進出し、先進的な分野で順調な事業活動を展開され、その工業製品出荷額は、市全体の三分の一を越すまでになりました。

そして、昨年の東海環状自動車道の開通により市内に高速道路のインターチェンジが二カ所となり、高速交通体系の重要な結節点となり、本市

「選択と集中」について

— 新しい街づくりを目指して —

の交通利便性は、飛躍的に充実に向上しました。ここ一、二年の間にさらなる本格的な企業進出の可能性が高まっております。今から優秀な人材確保の体制づくりが大切であり、そのためには魅力ある街づくりが不可欠であります。

本市では今日までに、社会生活の根幹である上・下水道について、既に上水道は、全市給水体制が整っておりますし、下水道もほかに先駆けて

高度処理対策に取り組み全市水洗化のめども立ちました。

保健・医療・福祉の施設と体制の整備、教育・文化・環境・産業振興の施設整備、土岐川の抜本改修や消防・防災体制の整備、土岐市駅をはじめ各種公共施設のバリアフリー化、活力ある高齢社会の実現と濃南地区の活性化の拠点としての健康と美容の殿堂「バーデンパークSOGI」も完成し、連日多くの皆さんで

土岐市長

塚本 保夫

にぎわっております。現在の最大の課題は、遅れております土岐市駅周辺など既成の中心市街地の再生事業であります。

本市の玄関であり、顔であります土岐市駅周辺の再生生活性は、今後の本市のイメージアップにとって極めて大きな重要課題であります。

「環境負荷の少ない街づくり」として中心市街地の有効な土地利用により、「歩いて

暮らせる街づくり」、「人が集まりやすい社会教育や子育て支援・福祉の複合施設の構築」など、「選択と集中」の理念に基づき、遅れをむしろ「バネ」として、理想的な住み良い街づくりに鋭意取り組んでまいります。

東海環状自動車道の開通により企業誘致は確実に進むものと信じておりますし、来場者が年間四百五十万人の土岐プレミアム・アウトレット、百万人を超える道の駅「どんぶり会館」・「志野・織部」、約二十万人の「バーデンパークSOGI」や、国指定史跡「元屋敷陶器窯跡」など、国内観光の拠点づくりも整ってまいります中で、本格的なビジネスホテルも具体的に動き出してまいります。

土岐市駅周辺の中心市街地再生事業を、新しい時代の「土岐市の顔」として魅力あるものにできますよう、地権者の皆さまを始め、市民各位の積極的なご理解とご支援ご協力を切にお願い申し上げます。